

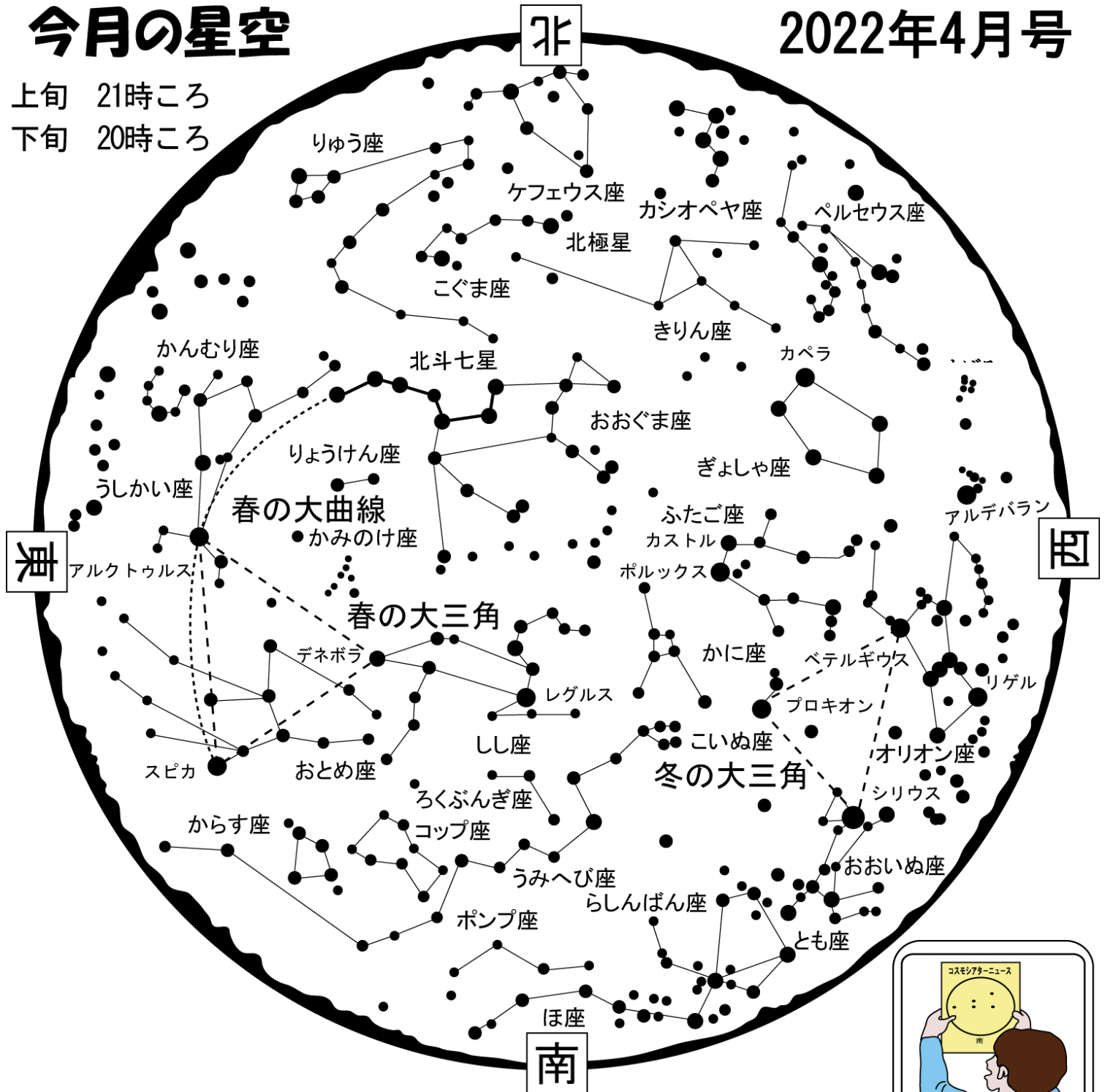
コスモシアターニュース

今月の星空

2022年4月号

上旬 21時ころ

下旬 20時ころ



水星：下旬の夕方、西の低い空に見えます。明るさは0等星です。29日にすばると並んで輝きます。
 金星：明け方、東の低い空に見えます。明るさは-4.5等星です。月末に月や木星と並んで輝きます。
 火星：明け方、東の低い空に見えます。明るさは1等星です。月末に月と並んで輝きます。
 木星：明け方、東の低い空に見えます。明るさは-2等星です。月末に月や金星と並んで輝きます。
 5月1日の明け方に、金星と木星がぴったり並んで輝きます。ぜひご覧ください。
 土星：明け方、南東の低い空に見えます。明るさは0.5等星です。月末に月と並んで輝きます。

今月の月の満ち欠け

新月：1日(金) 上弦：9日(土) 満月：17日(日) 下弦：23日(土)

23日(土)、明け方前、こと座流星群が極大

こと座流星群は、23日(土)の明け方ころに極大(一番多くなる)となります。こと座は、真夜中前に昇り、明け方にかけて、だんだん高くなります。よって、23日(土)の明け方に、たくさんの流星を見ることができます。

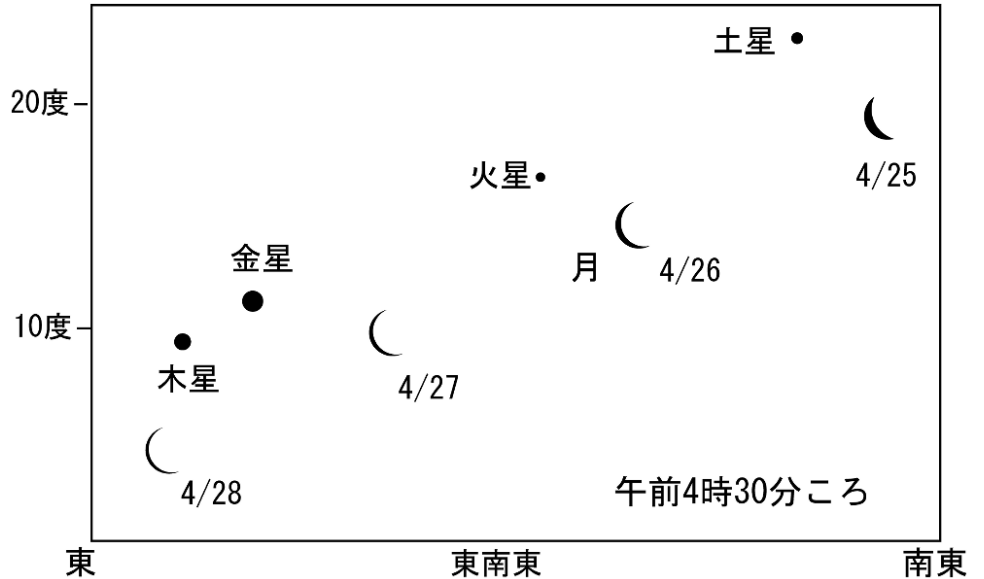
22日夜から23日の明け方は、下弦の月が輝き、あまり条件は良くありません。このため、松山市内では、23日の明け方前に、見られる流星の数は、1時間あたり数個くらいでしょう。そして、街明かりのない条件が良い所では、1時間に5個程度の流星が見られるかもしれません。なお、主に見られるのは、東の空です。ぜひ早起きをして観察してみてください。

下旬の明け方、月と惑星が並んで輝く

明け方の空に、4つの惑星が集合し、25日(月)から28日(木)にかけて、月が並んで輝きます。

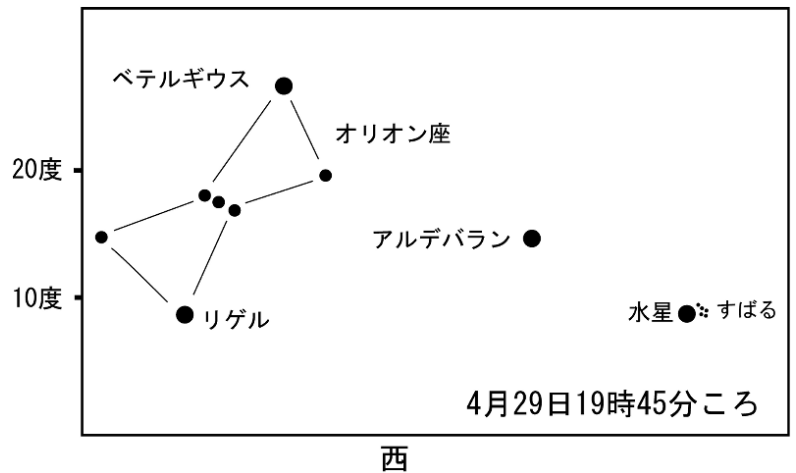
まず、25日、月と土星が並びます。そして、26日(火)には、月と火星の接近です。この二つの惑星は普通の1等星程度で、極端に目立つ星ではありません。そして、27日(水)は月と金星との接近です。金星の左下には木星も並んでいます。金星と木星は極端に明るい星ですので、たいへん目立つでしょう。28日は月の高さが低く見つけにくいかもしれませんが、まだ接近中です。ただし、29日(金)の明け方には月が見えなくなりこの接近は終了します。

ところで、金星と木星は30日(土)までは、金星の左下に木星が並びます。そして、5月1日(日)はぴったりと並び、2日(月)は並びが逆になります。肉眼でもよく見えますので、月と惑星の並び、木星と金星の接近をお楽しみください。見やすいのは、午前4時30分ころです。



29日(金)、水星が見ごろ

水星が、太陽から見かけ上最も東側に離れて見える時を、東方最大離角(とうほうさいだいいりかく)といいます。この日は、夕方の水星が一番見やすいころになります。ただし、水星は金星ほど明るくないので、他の星と区別が付きにくいでしょう。こんな時は、右の図のように、オリオン座が目印になります。オリオン座の右側に、おうし座のアルデバランがあります。そして、同じくらい間隔をおいて、水星が右側に輝いています。水星は、このあたりでいちばん明るく光っています。また、双眼鏡を使うと、すばると並んだ姿が見えるでしょう。高さが低いので、西の方向に障害物がないところで、探してみてください。見やすいのは19時45分前後になります。



北極星を見つけよう

北極星は、ほぼ真北に見え、ほとんど動くことがなく、北の方位を教えてくれる星です。しかし、明るさは2等星で、特別明るい星ではなく、時々わからなくなることがあります。

こんな時は、北斗七星の星の並びから、見つけることができます。北極星の場所は、右のように、北斗七星の端の二つの星を結んで、その間隔を5倍延ばした所となります。

北の空の星は、北極星をほぼ中心に、時計の針と反対方向に動いています。このように北極星は、北の方位を教えてくれるだけでなく、星の動きもお教えてくれますので、もし北斗七星が見つかったら、北極星を捜してみてください。なお、右の図の方法で、カシオペア座からも北極星を見つけることができます。ただ春の時期は、カシオペア座の高度が低く、見つけるのは難しいでしょう。

